

平成18年度 北海道ファミリーハウス役員

平成18年度 収支予算書  
(白:平成18年4月1日 至:平成19年3月31日)

(単位:円)

役職	氏名	勤務先等
理事長	松本 脩三	北大名誉教授
副理事長 (兼務事務局長)	金田 耕二	北海道電力生活協同組合専務理事
理事	中村 真一	(株)日本地建常務取締役
理事	中西千代美	北大病院小児科部長
理事	荒木 敏安	北海道電力労働組合組織局長
理事	島山 茂房	北海道骨髄バンク推進協会・運営委員長
理事	岡村 一郎	北海道電力(株)人事労務部部长
理事	加藤 弦	事務局
理事	塩谷えり子	事務局
理事	神戸 智子	事務局
理事	大西 可奈	事務局
監事	井上 保一	公認会計士
監事	三浦 克之	司法書士
顧問	山本 克郎	前理事長
顧問	渡邊 一雄	日本社会事業大学教授
顧問	松宮 和男	前事務局長

科目	平成17年度実績	平成18年度予算	備 考
<b>I. 収入の部</b>			
1. 会費収入	個人 129,000 法人 50,000	129,000 50,000	平成17年度実績 平成17年度実績
2. 賛助金収入	個人 1,836,000 法人 80,000	1,836,000 80,000	平成17年度実績 平成17年度実績
3. 助成金	650,000	0	
4. 寄付金	32,000	0	
5. 雑収入	13,000	0	
6. 受取利息	21	0	
収入計(A)	2,790,021	2,095,000	
<b>II. 支出の部</b>			
1. 管理費	832,287	800,000	
旅費交通費	212,590	180,000	全国会議2名、理事交通費
通信費	50,174	60,000	ホームページ管理通信料他
什器備品	113,985	10,000	
消耗品費	46,415	50,000	
賃借料	240,000	40,000	事務所家賃(滞在先支費との区分支払)
水道光熱費	58,508	10,000	電気料金、ガス暖房料金、水道料金
図書費	27,640	30,000	
印刷費	34,425	40,000	コピー用紙、トナー代金
雑費	34,425	40,000	ボランティア保険料、支払手数料
会議費	6,160	40,000	会議費用
総会費	9,965	30,000	総会会場費、通信費ほか
NPO法人設立準備金		270,000	NPO法人設立準備にかかる経費
2. 事業費	1,434,656	1,810,000	
滞在施設支援費	310,261	850,000	受付業務等人員費・ボランティア交通費、事務所家賃
通信費	427,325	450,000	ガイドブック、HFH通信他送付費用
印刷費	261,180	180,000	ガイドブック、チラシ、ポスター作成、封筒
会議費	20,185	30,000	大家会議費用
イベント費	415,705	300,000	春陽青春事業他
支出計(B)	2,266,943	2,610,000	繰越金を活用



「北海道 人・未来フォーラム」開かれる

命をつなぐ喜びのある社会へ

五月二十九日、札幌市男女共同参画センターホールにおいて「北海道 人・未来フォーラム」(主催・北海道新聞社・北海道人・未来フォーラム実行委員会)が開かれ、北海道ファミリーハウスは子育て支援の立場からパンフレット等を配布し、活動のPRを行いました。  
日本の人口が昨年から減り始め、少子化率の高い北海道も今後、経済、地域社会、教育などさまざまな分野に大きな影響があると予想されています。このフォーラムでは、社会の構成員の一人として、また北海道に生活する一人として子どもから高齢者までが安心して暮らす社会に向けて自己のライフプランをどう描くか、どう行動するかを考える機会にするため、開催されたものです。

基調講演(札幌市円山動物園種の保存担当部長丸山倫子氏)に続いて行われたパネルディスカッションでは、北海道の少子化や非婚晩婚傾向は全国的数値からみて厳しい状況にあり、このままの状態が進展する事は経済をはじめ社会基盤の脆弱は必至と考えられています。  
加えて、少子化の大きな要因の一つとして考えられる非婚晩婚に焦点をあてつつ、少子化の課題をどう解決するか、その一つとして、介護保険のようにある年齢以上の人全てが子育て基金として毎月一定額を税金のように支払う方法も検討すべきというシンポジストの発言や、人間関係作りを若者はどう取り組むか、また、家庭や家族と言ふ形で人類が受け継いできた「いのち」を考えると自分の命を人と分かちあおうとしない現代の結婚事情は人として生物として考えさせられるものがある。・・・など多くの発言がありました。

少子化時代のもうひとつの課題として社会に進出した女性が子どもを産み育てながら仕事を続けるための方策は社会制度上の整備を待つばかりでなく、個人で地域に両立ができるよう個人の持っている力を発揮することが大切ではないか



面から捕らえたフォーラムは全国的に初めて試みとして注目され、参加者には熱心に耳を傾けていた